

2章 スポーツに関する現状と課題

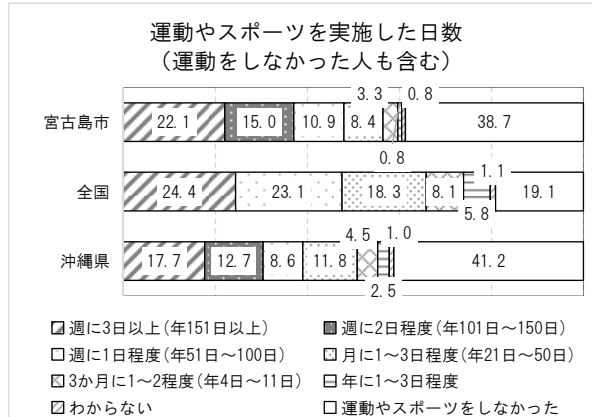
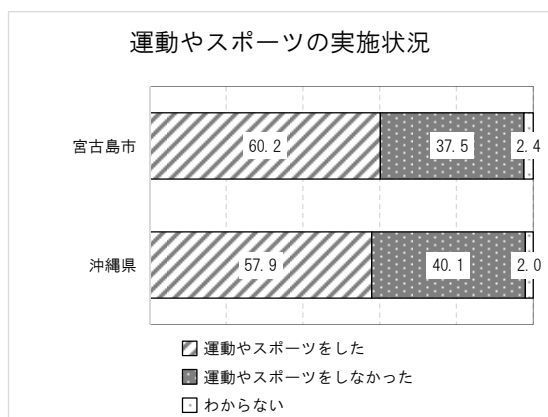
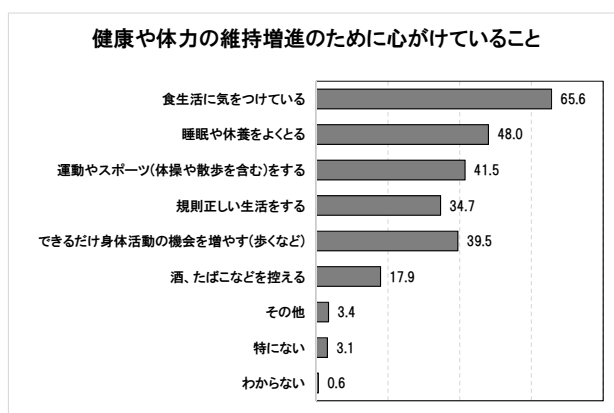
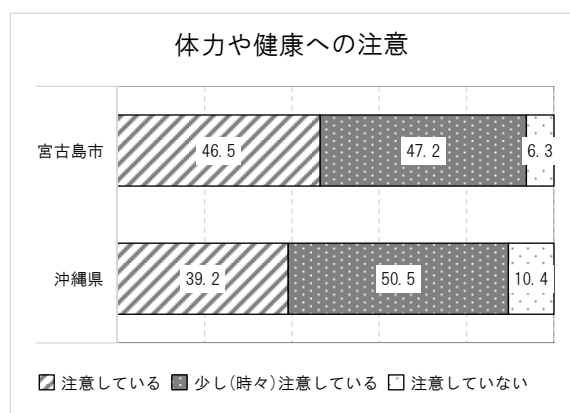
1. 成人のスポーツ

健康に対する意識が高く、運動・スポーツを実施している人が多い

宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」（平成27年1月調査）（以下、宮古島市市民意識調査）及び沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」（平成24年調査）（以下、沖縄県県民意識調査）、文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」（平成24年度調査）（以下、文部科学省世論調査）によると、体力や健康への注意をしている人の割合は、沖縄県より本市の方が高く、健康や体力への注意をしている人の約4割の方が、健康や体力の維持増進のために心がけていることとして、「運動やスポーツをしている」と回答しています。

運動・スポーツの実施状況を見ると、沖縄県より本市の方が、運動・スポーツを実施している答えた人の割合が高く、また、週に1日以上運動・スポーツを実施した人の割合は、全国や沖縄県よりも本市の割合が、かなり高くなっています。

本市が運動・スポーツを実施している人の割合が高い要因として、近年の健康志向の高まりによる地域のサークル・クラブの増加、多くのスポーツイベントの開催など、スポーツに触れる機会が増えていることが考えられます。

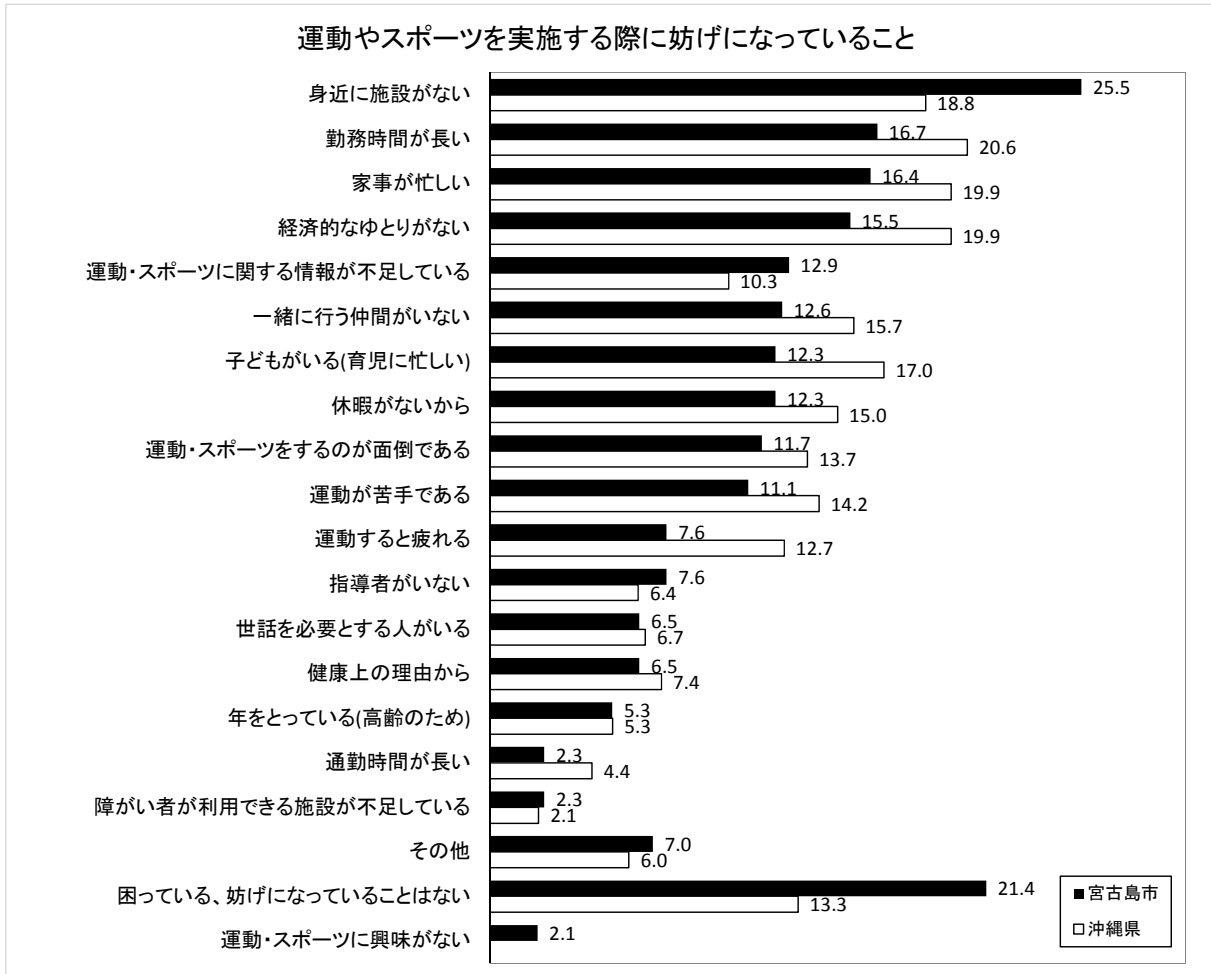


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」
 沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」
 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」

施設や勤務時間などが運動・スポーツをする際の妨げになっている

「宮古島市市民意識調査」によれば、運動・スポーツを実施する際に妨げになっていることでは、「身近に施設がない」と答えた人の割合が最も高く、次いで「勤務時間が長い」となっています。

沖縄県と比較すると、本市では「身近に施設がない」、「運動・スポーツに関する情報が不足している」、「指導者がいない」と答えた人の割合が高くなっています。一方で、「困っている、妨げになっていることはない」と答えた人は約2割おり、沖縄県と比較すると割合が高く、スポーツを行う環境として満足している人が多いと言えます。



資料:宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」
 沖縄県「県民の体力・スポーツに関する意識調査報告書」

<課題>

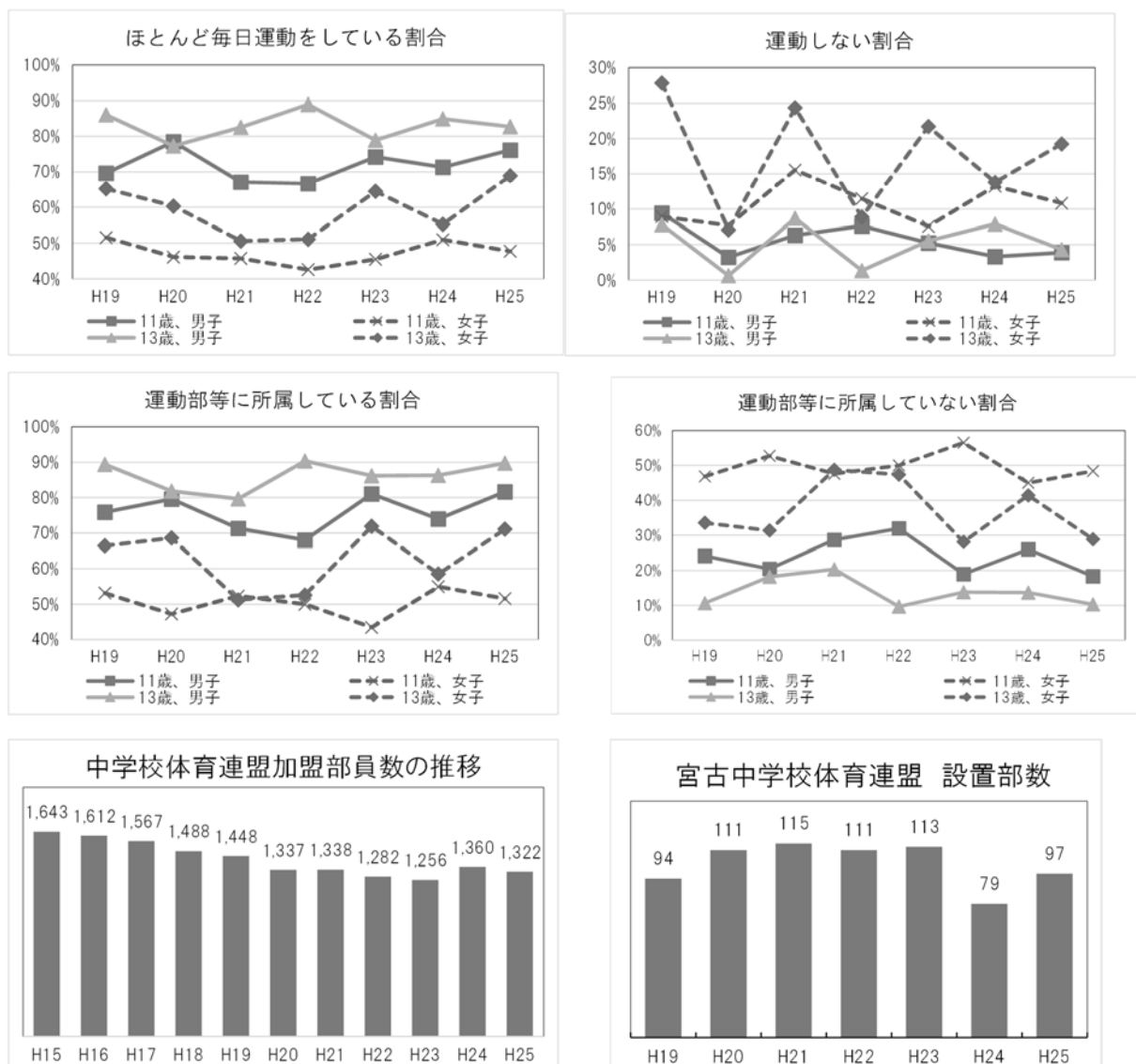
- ① 多様なライフステージ^{※3}に合わせて、短い時間でも参加できるような運動・スポーツ機会の創出が必要です。
- ② 市内の利用可能なスポーツ施設や運動・スポーツに関するイベント等の情報を発信し、市民に広く周知をすることが必要です。

2. 子どものスポーツ

学校での運動・スポーツの機会が減少している

「運動・スポーツ実施日数」及び「運動部等の所属状況」を見ると、男子（11歳、13歳）は「ほとんど毎日運動している」、「運動部に所属している」と答えた人の割合高くなっています。一方、女子（11歳、13歳）は、「運動をしない」、「運動部等に所属していない」と答えた人の割合が高くなっています。

中学校体育連盟加盟部員数及び設置部数を見ると、部員数が減少傾向にあり、部員数の減少により、運動部が減少し、学校でのスポーツ機会の減少につながっていると考えられます。また、今後、運動しない子どもの割合が高くなると、全国的にも問題となっている運動をしている子どもとの間で体力差が生じる「体力・運動能力の二極化」が進む可能性が高くなります。



資料：宮古島市「体力・運動能力、運動習慣等調査(全国体力テスト)^{**4)}

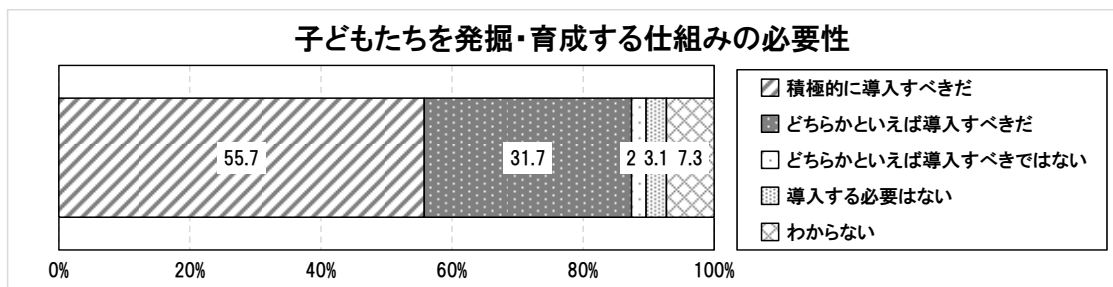
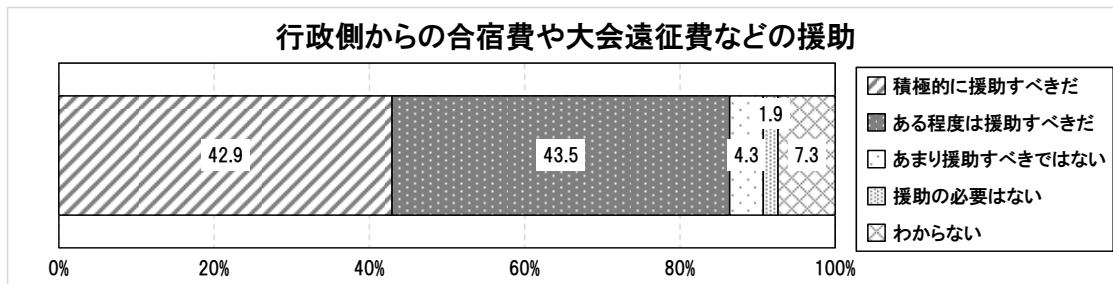
宮古島市「中学校体育連盟への調査」

遠征費等の負担低減や子どもたちを育成する仕組みが求められている

本市の子どもたちの中には、全国大会へ出場するなど、本市のジュニアアスリートや競技団体が活躍しています。

しかし、優れた競技者ほど、合宿や大会遠征等で市外へ出向く機会が多くなり、競技者や保護者、指導者等の遠征費等が大きな負担となっており、これらの負担が負えない場合、スポーツを継続することを断念する子どももいます。

「宮古島市市民意向調査」によると、「行政側から合宿費などの援助を行うべきだ」、「子どもたちを発掘・育成する仕組みが必要である」と答えた人の割合は8割以上となっており、子どもたちのスポーツ環境や競技力の向上への支援が求められています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

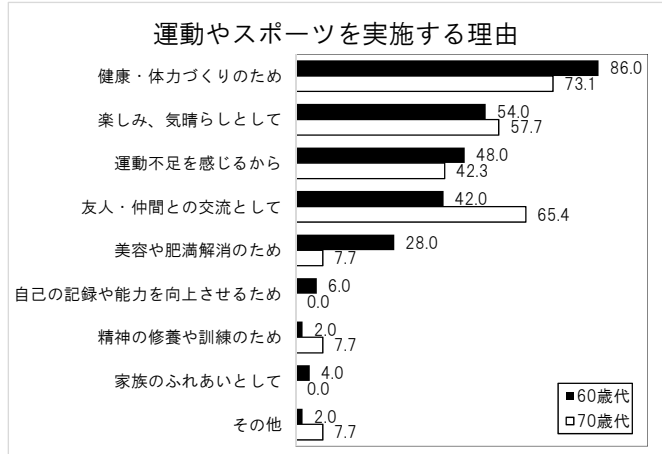
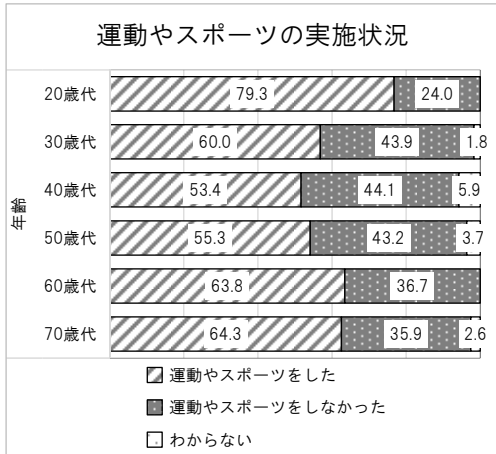
<課題>

- ① 幼児や小学校低学年の時から、学校や地域の中で様々な運動やスポーツ競技に触れられる機会を増やし、運動をしない子どもを減らす必要があります。
- ② 学校のみでなく、地域全体で、指導者やチーム、スポーツ施設などの環境を整え、子どもが継続的にスポーツできる環境を整える必要があります。
- ③ 子どもたちが高いレベルの試合やトレーニングを気兼ねなく行えるように、合宿費や大会遠征費などを支援する仕組みが必要です。

3. 高齢者のスポーツ

運動・スポーツを通して、健康づくりや仲間と交流を楽しんでいる

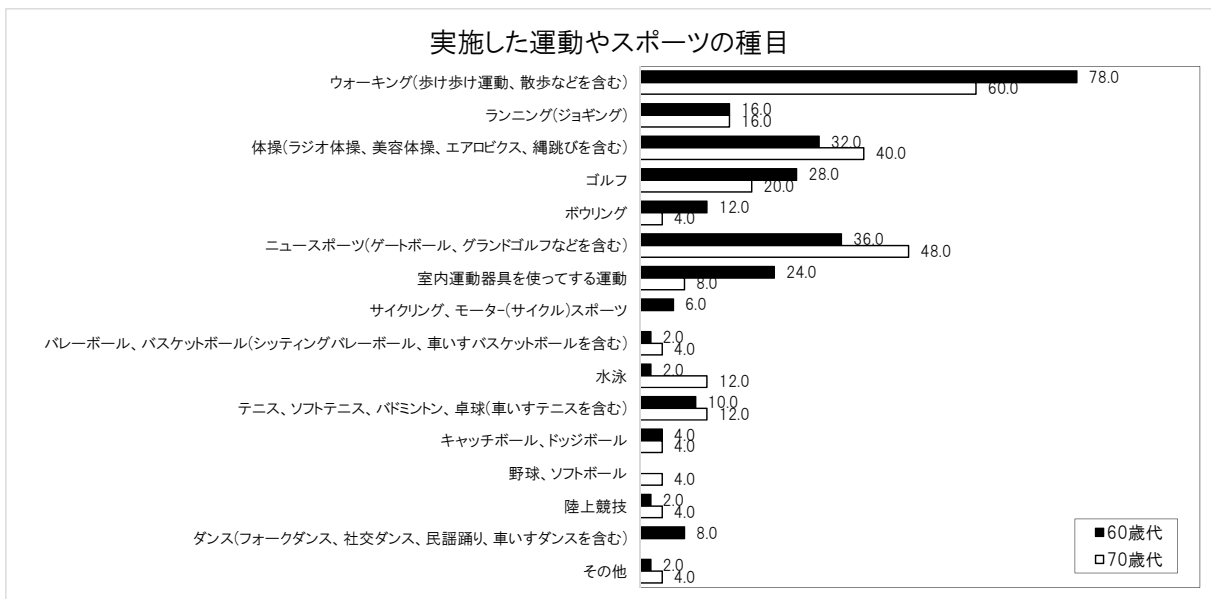
「宮古島市市民意識調査」の運動やスポーツの実施状況を年齢別に見ると、60歳代以上の高齢者の運動やスポーツ実施したと答えた人の割合が高く、また、運動やスポーツを実施する理由としては、「健康・体力づくり」や「友人・仲間との交流」と答えた人の割合が高くなっています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

高齢者を中心にニュースポーツ※⁵が盛んに行われている

60歳代以上の高齢者の方が実施した運動・スポーツの種目では、「ウォーキング」が最も多く、次いでグラウンドゴルフやゲートボール、ラージボールなどの「ニュースポーツ」を行っている割合が高く、本市では高齢者を中心にニュースポーツが盛んに行われています。

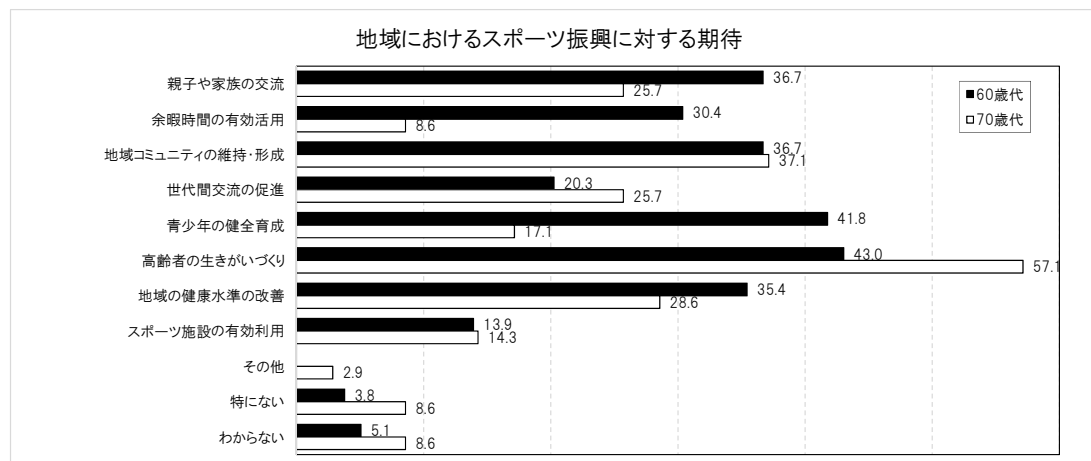
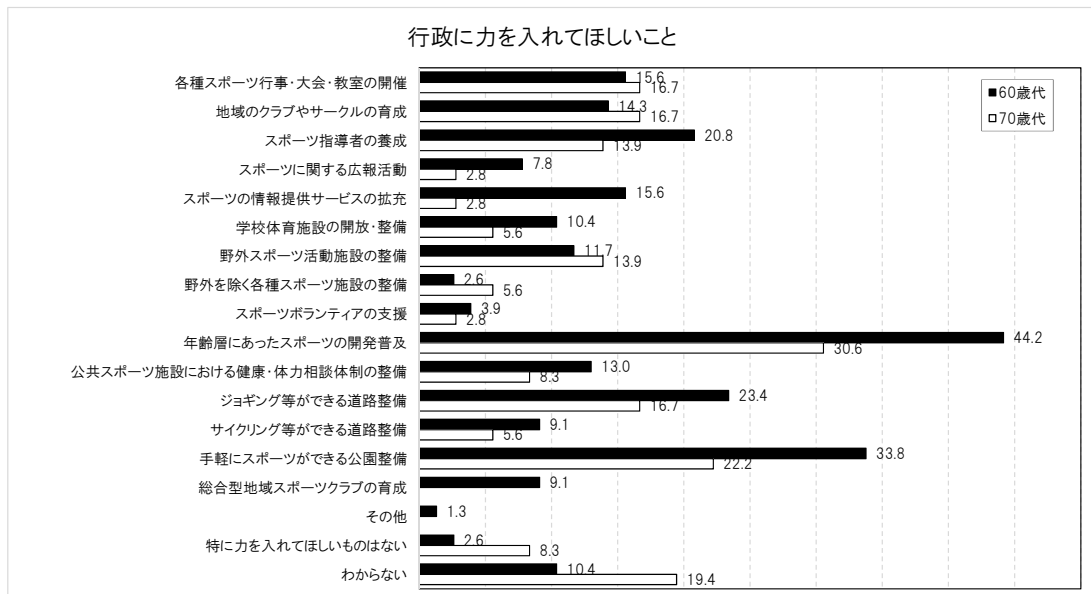


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

年齢層にあったスポーツ開発や生きがいがづくりが望まれている

「宮古島市市民意識調査」によれば、60歳以上の高齢者が行政に力を入れてほしいこととしては、「年齢層にあったスポーツ開発普及」と答えた人の割合が最も高く、次いで「手軽にスポーツができる公園整備」となっています。

60歳以上の高齢者が地域におけるスポーツ振興に対する期待としては、「高齢者の生きがいがづくり」と答えた人の割合が最も高く、次いで「地域コミュニティの維持・形成」となっています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① 高齢者が特に興味がある「健康づくり」に関する情報発信を強化する必要があります。
- ② 軽スポーツやニュースポーツ等の普及のために、指導者の育成や大会等の誘致を検討する必要があります。
- ③ 高齢者の運動・スポーツの促進のために、高齢者の体力に合わせたスポーツ競技やスポーツプログラムを導入・開発する必要があります。

4. 障がい者のスポーツ

障がい者のスポーツ機会が増え、トップクラスの競技者が誕生している

本市における障がい者手帳の交付件数は年々増加傾向にあり、障がい者が社会とのつながりをつくる上で、運動・スポーツに触れて外に出ていくことに、重要な価値があります。

障がい者スポーツとして、本市では車いすバスケットボールやサウンドテーブルテニスなどが盛んに行われています。また、障がい者がスポーツに触れる機会が増えたことで、本市から県内トップクラスの競技者（陸上競技）が生まれています。

障がい別手帳所有者の推移

	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
身体障害者手帳 所持者	2,046	2,234	2,268	2,279	2,298
療育手帳所持者	332	352	369	380	379
精神障害者保健 福祉手帳所持者	329	305	302	356	356

資料：「第1次宮古島市総合計画 後期計画」



【車イスバスケット】



【サウンドテーブルテニス】

障がい者が安心してスポーツを実施できる環境が整備されていない

市内の公共スポーツ施設では、バリアフリー^{※6}化が進んでおらず、車いすで利用できる公共スポーツ施設が少ないため、競技ができる施設が限られています。また、車いすバスケットボールなどは、市民の認知度が低く、競技者も少ないため、市内で試合をすることができず、沖縄本島まで試合に出向かなければならないことがあり、競技者の金銭的な負担が大きくなっています。

また、市内には障がい者へ指導ができる指導者や支援者が不足していることから、市内で適切な指導を受けられないため、有望な競技者は沖縄本島へ活動拠点を移しています。

<課題>

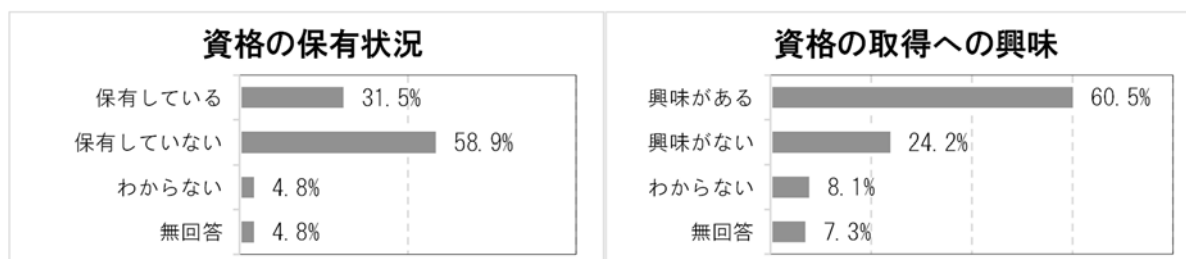
- ① 障がい者が社会とのつながりをつくり、生き生きした暮らしを実現するために、気軽に運動やスポーツが行える機会を創出することが必要です。
- ② 市内の公共スポーツ施設は、市民誰もが利用することを想定して、段差をなしたバリアフリーやユニバーサルデザイン^{※7}の考え方で整備を行うことが必要です。
- ③ 障がい者スポーツの普及促進及び地域活性化を図るため、障がい者が参加できるスポーツイベントの開催を検討する必要があります。
- ④ 障がい者スポーツの普及促進及び地域活性化を図るため、障がい者のトップアスリート^{※8}がトレーニングできる環境（指導者、支援者）を整備する必要があります。



5. 指導者・支援者

資格を保有している人は3割程度だが、資格取得に興味のある人は多い

「指導者へのアンケート調査」を見ると、市内では資格を有している指導者は約3割、指導者に関する資格の取得に興味のある指導者は約6割います。



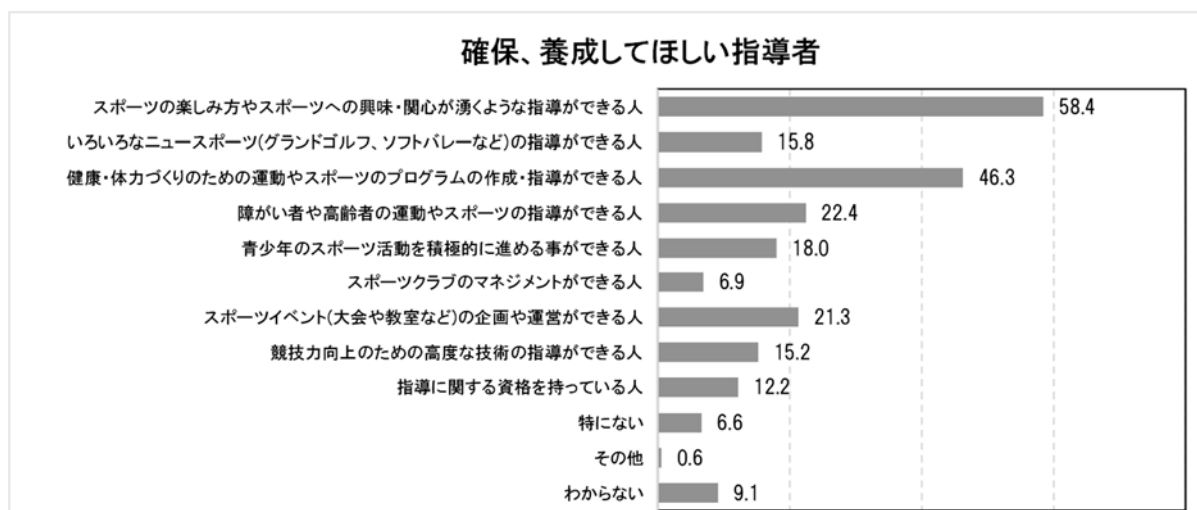
<保有している資格>

全国小学生バレーボール指導者講習会／公認スポーツ指導者／日本バレーボール指導員／日本体育協会バレーボール指導員／スポーツリーダー／スターターコーチ／スポーツ少年団 公認スポーツリーダー／JAB (日本バスケットボール協会)公認E-1 コーチライセンス／ミニバスケ指導資格E-1／JBC公認D級指導者／保健体育教員免許状／C級指導員者ライセンス／日本サッカー協会指導者ライセンス公認C級／公認キッズリーダー／日本体育協会公認コーチ／ウェーブストレッチ、インストラクター、ストレッチポールインストラクター／D級コーチライセンス／段位（剣道、柔道、空手）／講道館柔道A指導員

資料：宮古島市「指導者アンケート調査」

「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」を指導していただける人材が求められている

「宮古島市市民意識調査」を見ると、確保、養成してほしい指導者として「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心が湧くような指導ができる人」と答えた人の割合が最も高く、次いで「健康や体力づくりのための運動やスポーツのプログラムの作成ができる人」となっています。市民は「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」を指導してくれる人材を求めています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

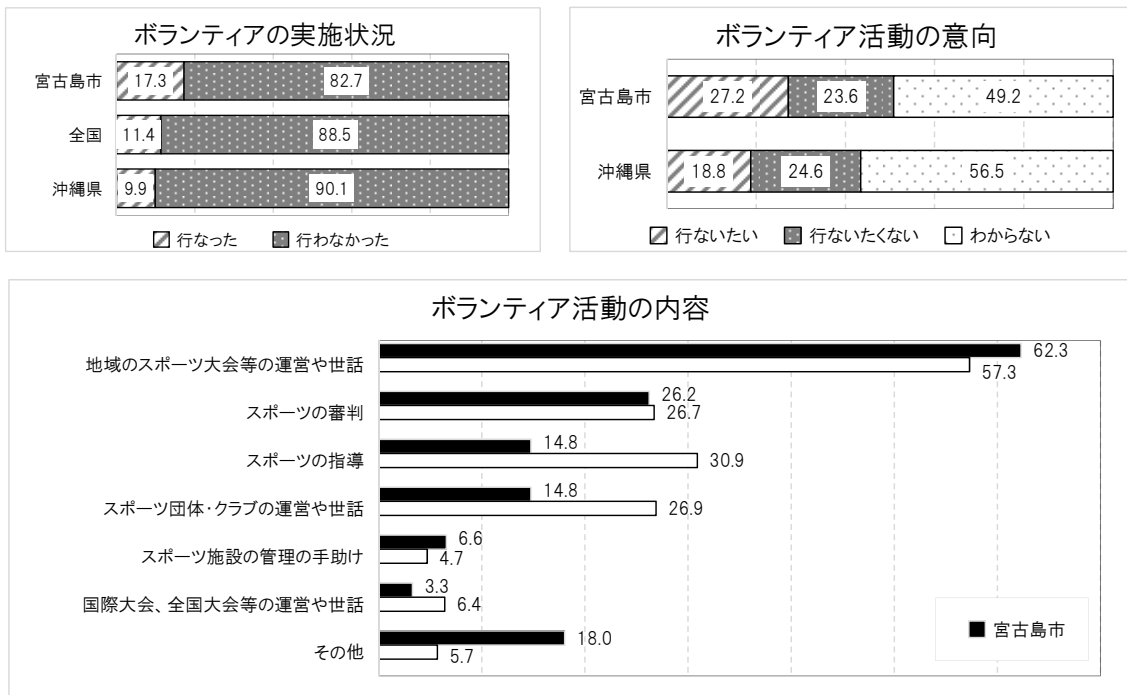
競技力の向上のためには、指導者が重要

本市で競技力が向上した競技として、「陸上競技」、「ウエイトリフティング」、「ボクシング」などが挙げられるが、これらの競技力が向上した要因は、優秀な指導者による指導が大きいと言われています。一方、優秀な指導者がいなくなると、指導力が低下し、競技者数の減少、競技力が低下してしまった競技もあります。

スポーツに関するボランティアへの参加意向が高い

本市では、国や沖縄県と比較すると、ボランティアに参加している人や市民のスポーツボランティア^{※9}への参加意識がある人が多く、スポーツを支える人材が豊富にいると言えます。

ボランティア活動の内容を、沖縄県と比較すると「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が高く、逆に、「スポーツ指導」、「スポーツ施設の管理の手助け」と回答した人の割合は低くなっています。「地域のスポーツ大会等の運営や世話」と答えた人の割合が高い要因として、地域のスポーツ大会等は、各競技団体のメンバーで運営をサポートしているためであると考えられます。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① 質の高い指導を提供し、競技力の向上を図るために、指導者講習会や資格取得のできる講習会の開催を支援し、多くの優秀な指導者を継続的に確保・育成する必要があります。
- ② 市民のスポーツ意識の向上ために、「スポーツの楽しみ方」や「健康や体力づくり」の指導ができる人の確保・育成することが必要です。
- ③ 意欲のあるスポーツボランティアを活用するために、ボランティアへの情報発信やボランティアの参加受け付けがスムーズにできるような整備を行う必要があります。

6. スポーツ競技団体

競技力の向上を目指し、449の競技団体がそれぞれ活動している

本市には、449の競技団体があり、地域の底辺拡大と競技力の向上を目指し、それぞれの競技団体で強化合宿等の活動をしています。また、近年、競技種目の多様化により、サークルやクラブなどの競技団体が増えてきており、市民が様々なスポーツに触れる機会が増えていきます。

＜スポーツ関連団体の登録団体・登録者数＞

	小学校		中学校・高校		社会人	
	団体数	登録者数	団体数	登録者数	団体数	登録者数
宮古野球連盟	12 団体	370 人	16 団体	229 人	80 団体	1,200 人
宮古バスケットボール協会	—	—	32 団体	480 人	17 団体	250 人
宮古サッカー協会	7 団体	403 人	8 団体	169 人	20 団体	260 人
宮古バレーボール協会	—	—	18 団体	180 人	20 団体	400 人
宮古島市陸上競技協会	—	—	—	—	—	547 人
宮古バドミントン協会	5 団体	24 人	14 団体	200 人	10 団体	300 人
宮古ミニバスケットボール連盟	27 団体	460 人	—	—	—	—
宮古水泳協会	10 団体	120 人	2 団体	11 人	6 団体	119 人
宮古ソフトテニス連盟	2 団体	20 人	3 団体	35 人	1 団体	150 人
宮古テニス協会	—	—	4 団体	90 人	5 団体	50 人
宮古島市ハンドボール協会	—	—	3 団体	47 人	8 団体	91 人
沖縄県角力協会宮古支部	—	50 人	—	20 人	—	50 人
宮古卓球連盟	—	20 人	—	40 人	—	30 人
沖縄県柔道連盟宮古支部	—	32 人	—	37 人	—	18 人
宮古ボウリングクラブ	—	—	—	3 人	—	60 人
宮古郡剣道連盟	—	—	—	—	—	56 人
宮古ゴルフ連盟	—	約3人	—	約3人	—	約50人
宮古ラグビーフットボール協会	1 団体	10 人	1 団体	13 人	1 団体	22 人
宮古地区小学校体育連盟	21 団体	約700人	—	—	—	—
宮古中学校体育連盟	—	—	85 団体	1,322 人	—	—
宮古地区高等学校体育連盟	—	—	10 団体	約500人	—	—
合計	85 団体	2,212 人	196 団体	3,379 人	168 団体	3,753 人

資料：宮古島市「スポーツ関連団体調査」(平成 25 年調査)

競技団体内の小学校・中学校・高校のつながりが強い

本市の大会等のイベントでは、各競技団体の関係者が、イベント運営のサポートを行っています。各競技団体では、特に小学校・中学校・高校のつながりが強く、中学生や高校生が大会等の運営サポートを行っています。

また、市内の小・中・高校が合同練習や合同合宿を行っており、競技力の向上につながっています。

<課題>

- ① 競技者の底辺拡大のために、スポーツ教室など競技団体の活動への支援を行う必要があります。
- ② 競技力の向上やスポーツ意識の向上のために、各競技団体と協力して、トップアスリートを招いた講習会や講演会等の実施を検討する必要があります。
- ③ 競技力の向上のため、市外からスポーツ合宿等で訪れたチームとの交流を促進させる必要があります。
- ④ 競技力の向上のために、競技団体内のつながりを活かした合同練習や合同合宿を促進する必要があります。



7. 総合型地域スポーツクラブ※10

総合型地域スポーツクラブは市民のスポーツ機会の提供やスポーツ施設の維持管理に貢献している

市内に4つの総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）が設立され、市民にスポーツ機会を提供し、市民のスポーツ意識の向上、健康増進に寄与してきました。また、総合型クラブは、市内の公共スポーツ施設を利用する前後には、簡単な施設の整備等を行っており、スポーツ施設の維持管理にも貢献しています。

しかし、現在、「多世代」、「多種目」、「多志向」、という総合型クラブの特徴を有し、総合型クラブとして活動しているのは下地総合スポーツクラブのみです。

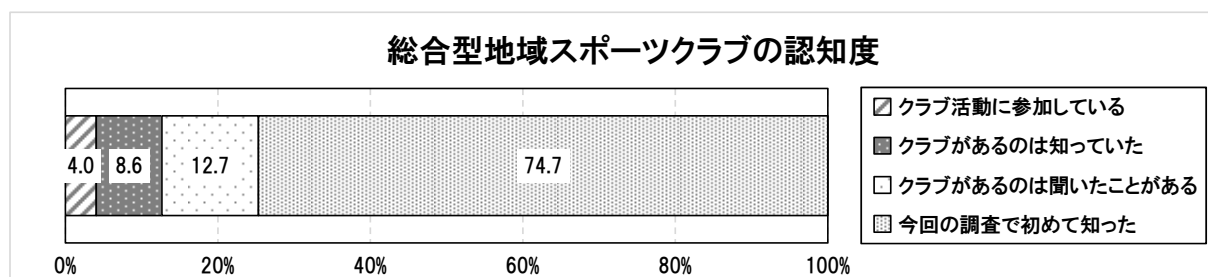
総合型クラブ名	会員数	種目
総合型ひららスポーツクラブ	80名	ラージボール
上野スポーツクラブ	(休止中)	なし
城辺スポーツクラブ	(設立準備中)	陸上競技（長距離、短距離の記録会）
下地総合スポーツクラブ	130名	多種目（ヨガ、太鼓など）

資料：宮古島市「関連団体等へのヒアリング調査」（平成27年1月調査）

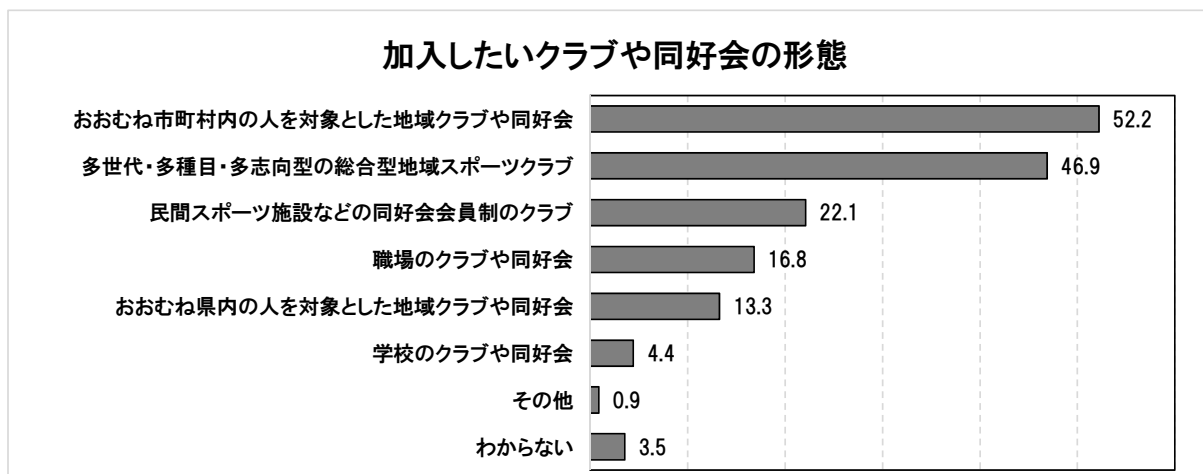
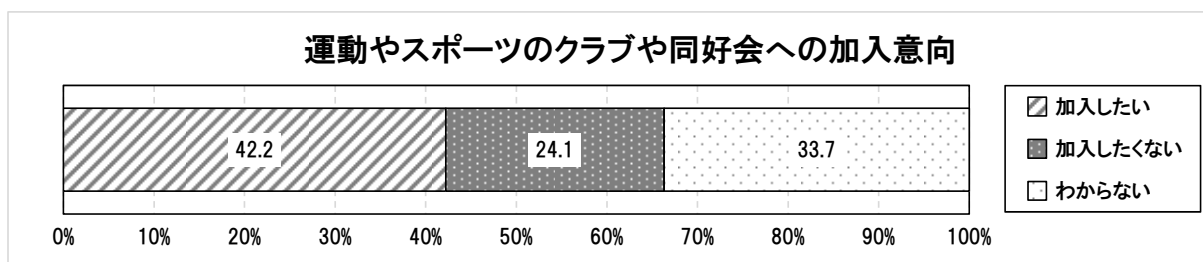
総合型クラブの認知度は低いですが、加入したい人は多い

「宮古島市意識調査」によれば、総合型クラブを認知していると答えた人の割合は、3割未満と少なく、総合型クラブに参加していると答えた人の割合は、1割未満となっています。

また、市民への情報発信不足などにより、会員数が減少している総合型クラブもあります。一方で、運動やスポーツのクラブや同好会へ参加したいと答えた人の割合は、約4割となっており、その内、「総合型クラブ」に加入したいと答えた人は約半数となっており、潜在的に総合型クラブに所属したいと考えている人が多くいます。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

自立的に総合型クラブを運営するための財源や人材が不足している

市内の総合型クラブは、規模が小さく、財源も補助金に頼っている状況であり、補助金がないと活動ができなくなる可能性があります。また、常勤のクラブマネージャー^{*11}や有資格指導者、プログラムの作成・指導ができる人が不足しており、適切な運営、活動ができていない総合型クラブもあります。

<課題>

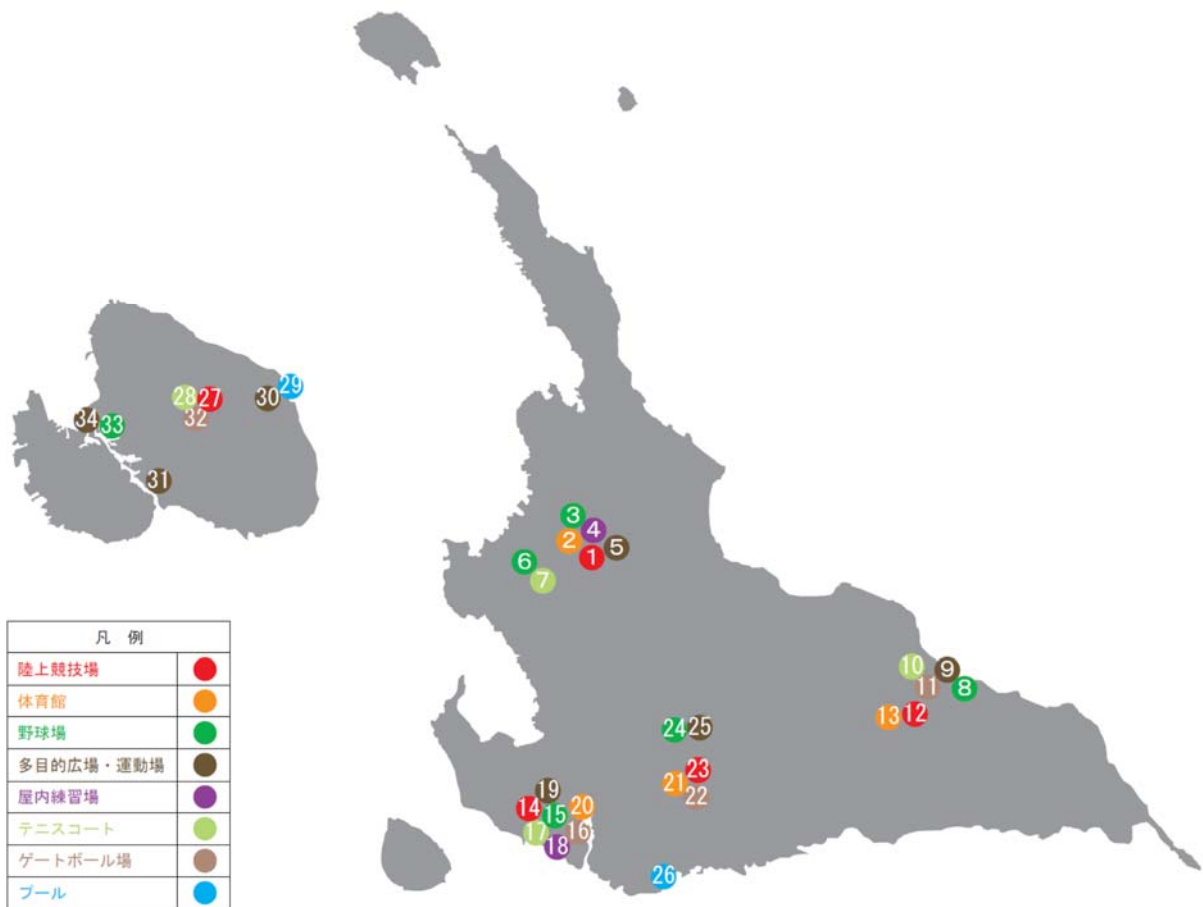
- ① 地域の誰もがスポーツに気軽に参加できるようにするために、特定の競技者やスポーツ種目のみでなく、「多世代」、「多種目」、「多志向」の総合型クラブを目指す必要があります。
- ② 総合型クラブの会員の増やし、地域のスポーツ機会の創出につなげるために、総合型クラブの活動等を広く情報発信する必要があります。
- ③ 地域住民により自主的・主体的に運営される総合型クラブを目指し、クラブマネージャーなどの資格等の取得及び総合型クラブの法人取得を支援する必要があります。
- ④ スポーツ施設の適切な維持管理と総合型クラブの施設利用料の軽減につなげるため、総合型クラブと連携したスポーツ施設の管理を検討する必要があります。

8. スポーツ施設

類似施設が多く、老朽化が進んでいる。また、維持管理の費用と人材が不足している

施設面においては、陸上競技場や体育館、野球場等の施設が合併前の旧市町村ごとに整備され比較的恵まれた環境にあります。

その一方で、類似施設が多く、施設によって利用状況が大きく異なっています。また、施設の老朽化が進み、スポーツ施設の機能を保つために必要な施設の修繕コストや維持管理に係る人材が不足しています。



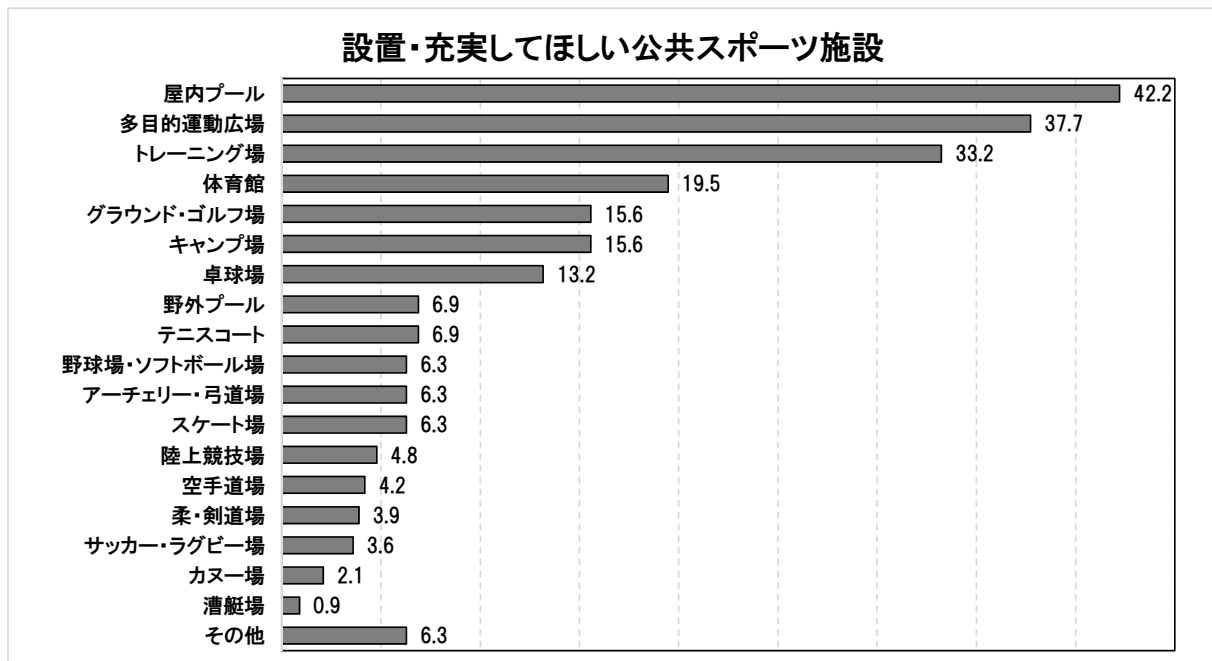
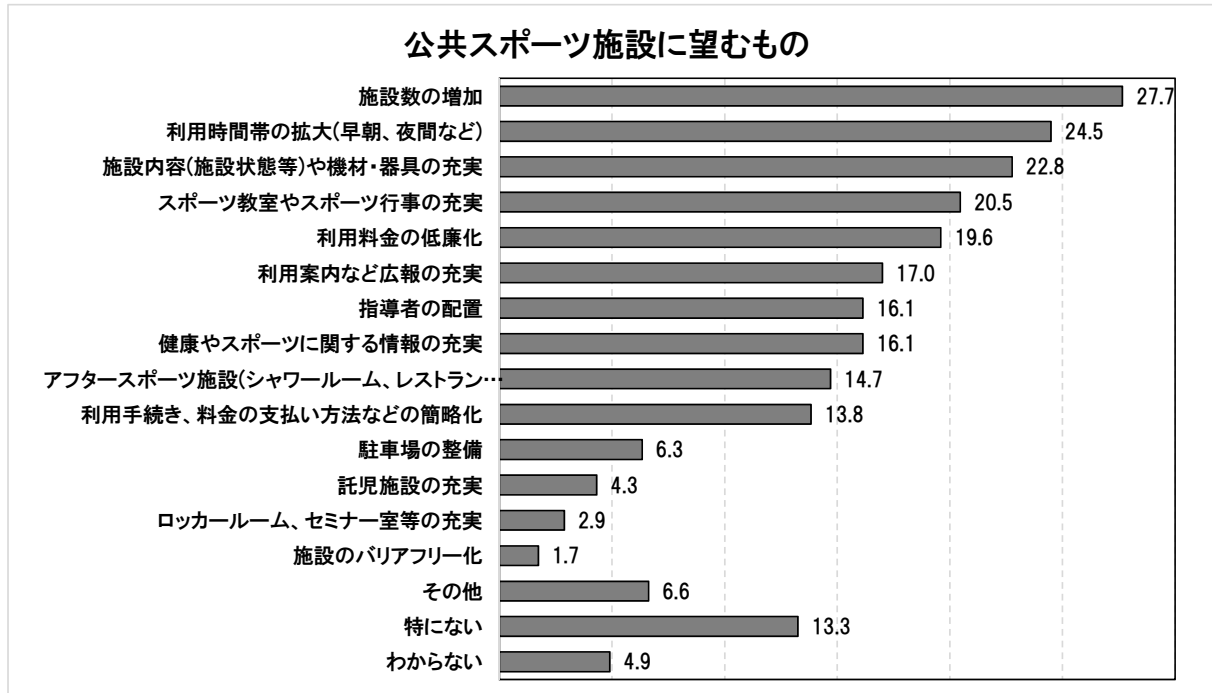
1. 宮古島市陸上競技場	14. 下地陸上競技場	26. リフレッシュパークプール (うえのドイツ村のプール)
2. 宮古島市総合体育館	15. 下地運動公園野球場	28. 伊良部テニスコート
3. 宮古島市民球場	16. 下地運動公園ゲートボール場	27. 伊良部カントリーパーク(陸上競技場)
4. 多目的屋内運動場	17. 下地運動公園テニスコート	29. 佐良浜スポーツセンター屋外プール
5. 多目的前福運動場	18. 下地運動公園屋内テニスコート	30. 佐良浜スポーツセンター多目的広場
6. 市営球場(カママ嶺)	19. 下地運動公園芝生広場	31. 伊良部運動公園
7. カママ嶺テニスコート	20. 下地勤労者体育センター(体育館)	32. 伊良部老人福祉センター (ゲートボール場)
8. 城辺運動公園野球場	21. 上野体育館	33. 伊良部勤労者体育センター(野球場)
9. 城辺運動公園多目的広場	22. 上野ゲートボール場	34. 平成の森公園
10. 城辺運動公園テニスコート	23. 上野陸上競技場	
11. 城辺運動公園ゲートボール場	24. 大嶽城址公園野球場	
12. 城辺陸上競技場	25. 大嶽城址公園多目的広場	
13. 城辺トレーニングセンター		

スポーツ施設数の増加や利用時間帯の拡大が望まれている

「宮古島市市民意識調査」によれば、公共スポーツ施設に望むものとして「施設数の増加」と答えた人の割合が最も高く、次いで「利用時間帯の拡大」、「施設内容や機材・器具の充実」となっています。

設置・充実してほしい公共スポーツ施設では、「屋内プール」と答えた人の割合が最も高く、次いで「多目的広場」、「トレーニング場」となっています。

利用時間帯の拡大については、現在、休館日になっている月曜日・祝日に施設が利用できるようにしてほしいとの意見が多くあります。

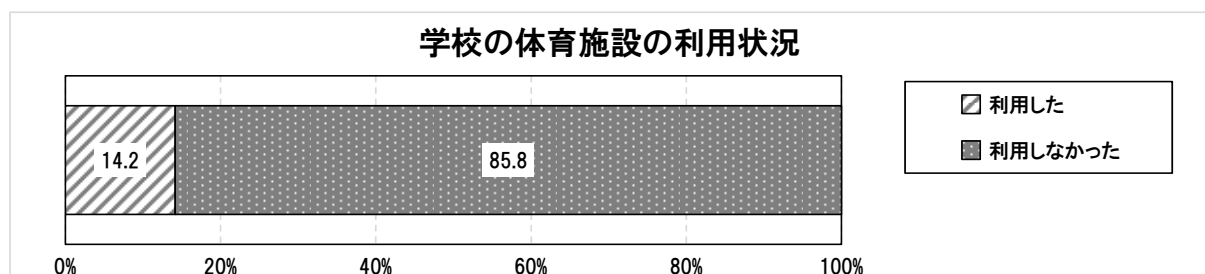


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

多くの学校体育施設が一般開放されているが利用している人は少ない

多くの市内学校体育施設は、一般開放されています。

しかし、「宮古島市市民意識調査」を見ると、学校の体育施設を利用した人の割合は、1割程度と少ない状況です。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<一般開放されている学校体育施設一覧>

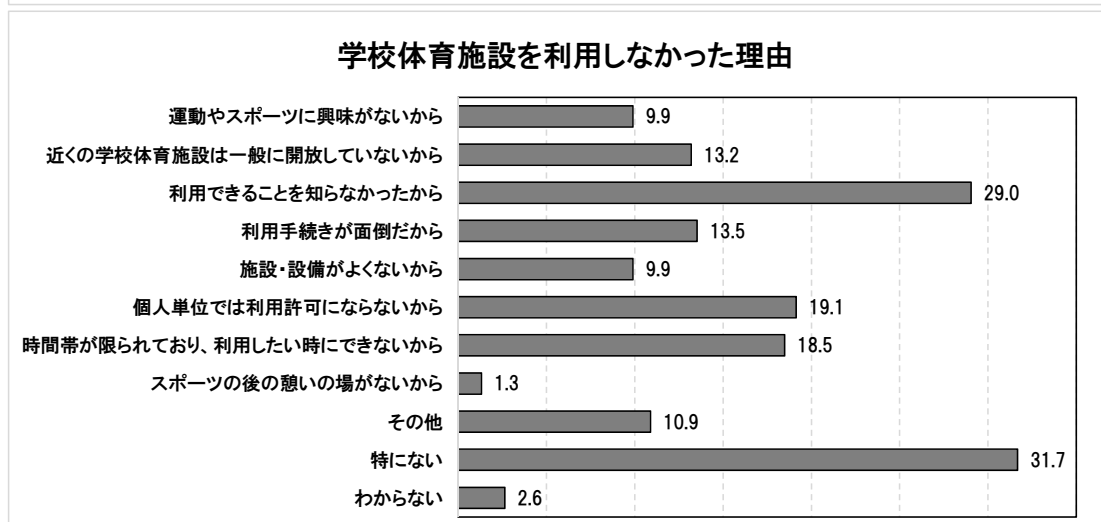
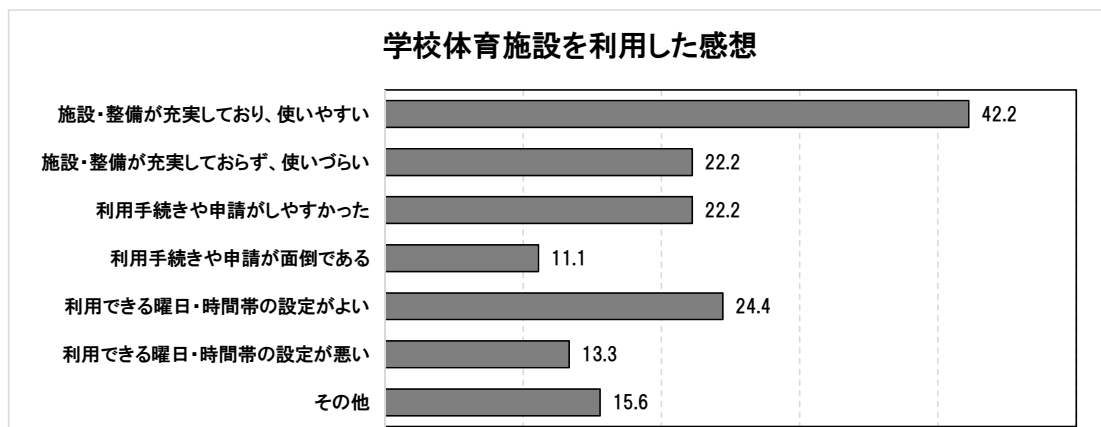
学校名	利用施設	一般開放曜日	開放時間
狩俣小学校	体育館	申し出があり学校の教育活動に支障がない曜日	18:00～22:00
西辺小学校	体育館	月・火・水・木・金	20:00～22:00
北小学校	体育館	月・火・水・木・金	18:00～22:00
久松小学校	体育館	月～金	19:00～22:00
鏡原小学校	体育館	①月・水・金、②木	①20:00～22:00、②19:30～21:30
砂川小学校	体育館	①火・金、②木	①20:00～23:00、②19:00～22:00
城辺小学校	体育館	火・木	20:00～22:00
上野小学校	体育館	土	19:00～21:00
下地小学校	体育館	火・木	20:00～22:00
佐良浜小学校	体育館	月・火・木・金・土	19:30～21:00
	グラウンド	土・日・祝祭日	8:00～18:00
伊良部小学校	体育館	①月・水・金、②土・日・祝日	①19:00～21:00、②施設利用申込みのあった時間帯
平良第一小学校	体育館	月～土	19:30～22:00
宮原小学校	体育館	①月～金毎日、②土・日・祝日	①17:00～21:30、②9:00～21:30
南小学校	体育館	①月・水、②火・金、③土	①20:00～21:30、②20:00～22:00、③19:30～21:00
東小学校	体育館	月～土	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日	9:00～17:00
	テニスコート	月～土	16:30～18:00
池間小中学校	体育館	申請があった場合に開放している	申請する時間帯で授業や部活動に支障が無い時間帯
狩俣中学校	体育館	火・木	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日等 申請のあった日	8:00～18:00
西辺中学校	体育館	①月・火・水・木、②土・日・祝日	①19:30～20:00、②7:30～17:00
平良中学校	体育館	毎日	20:00～22:00
	武道場	月・水・金	20:00～22:00
久松中学校	体育館	毎日	19:30～22:00
鏡原中学校	体育館	①月～金、②土・日	①20:00～22:00、②8:00～18:00
	テニスコート	土・日	8:00～18:00
	運動場	土・日	8:00～18:00
砂川中学校	体育館	月～金	20:00～22:00
	グラウンド	土・日・祝日	9:00～17:00
西城中学校	体育館	毎週木曜日	20:00～22:00
	グラウンド	不定期(陸上大会、駅伝大会)※学区体協主催	8:00～18:00
城辺中学校	体育館	①月～金、②土・日・祝日	①19:00～22:00、②10:00～22:00(部活との調整あり)
上野中学校	体育館	バレー:月・木、バスケット:火・水	19:00～20:00
下地中学校	体育館	火・水・金	20:00～22:00
佐良浜中学校	体育館	月～金	19:00～21:30
	グラウンド	土・日・祝日	8:30～17:00

資料：宮古島市「各学校への調査」(平成27年1月調査)

学校体育施設を利用できることを知らない人が多い

学校体育施設を使用しなかった理由として、「利用できることを知らなかった」と回答した割合が高く、市内の学校体育施設を利用できることを知らない市民が多くいます。

一方で、学校体育施設の利用した人の感想では、「施設が充実しており、使いやすい」と回答した割合が最も高く、次いで「利用できる曜日・時間の設定がよい」となっており、学校体育施設を利用した人の多くは、利用した学校体育施設に満足しています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

<課題>

- ① スポーツ施設環境を改善・維持していくため、既存スポーツ施設を有効活用し、必要な機能の整備や修繕を行う必要があります。
- ② 競技団体や総合型クラブと協力して、スポーツ施設を適切に維持管理及び運営するために、必要な知識を有した人材の確保・育成を行う必要があります。
- ③ 市民や競技者の利用を増やし、施設使用率の向上のため、施設利用時間帯の見直しの検討及び利用者・収支推計を行う必要があります。
- ④ スポーツ施設や学校体育施設は、市民により利用しやすくするために、学校体育施設の情報発信や施設利用予約の仕組みを整備する必要があります。
- ⑤ 既存のスポーツ施設を有効活用するために、施設の機能やコスト、人材育成など、スポーツ施設に関するヒト、モノ、カネ、情報等を総合的にマネジメントすることが必要です。

9. スポーツイベント

知名度のあるイベントが開催され、市外から参加者が訪れている。また、イベントにボランティアとして参加する市民が多い

本市は、全日本トライアスロン宮古島大会、宮古島 100km ワイドーマラソン、島内マラソン大会などの様々なスポーツイベントが開催されており、温暖な気候を有していることから年間を通してスポーツに関われる環境があります。

また、市内の充実したスポーツ施設を活かし、プロ・社会人・大学等の各種（特に野球や陸上競技）スポーツキャンプ・合宿が行われています。

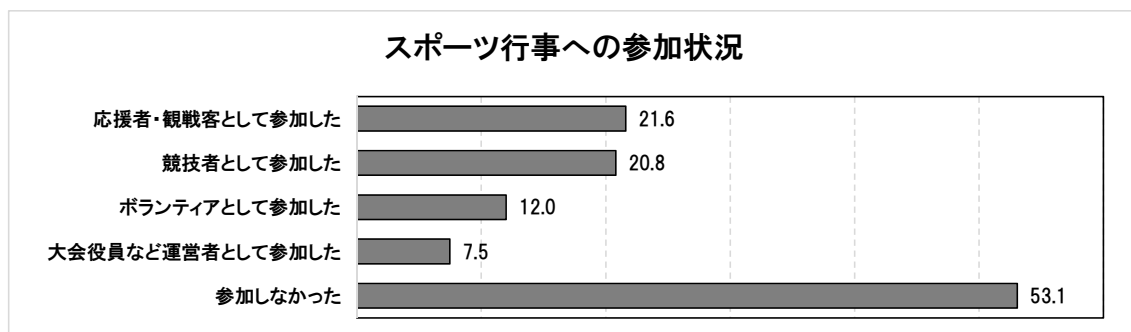
市民のスポーツイベントへの参加状況では、「応援者・観戦客として参加した」と答えた人の割合が最も高く、次いで「競技者として参加した」、「ボランティアとして参加した」となっています。

「応援者・観戦客として参加した」や「ボランティアとして参加した」の割合が高い要因として、全国的に認知度があるイベントに、市民が関われる基盤ができているためであると考えられます。

＜宮古島市の主なスポーツイベントと参加者数＞

		平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
1 月	宮古島 100km ワイドーマラソン	728 人	1,146 人	1,628 人
2 月	ロマン海道伊良部島マラソン	921 人	829 人	1,016 人
4 月	全日本トライアスロン 宮古島大会	1,470 人	1,470 人	1,531 人
6 月	ビーチバレー宮古島大会	96 組	105 組	342 人
	ツール・ド・宮古島	中止	394 人	638 人
7 月	サニツ浜カーニバル	1,039 人	1,256 人	1,056 人
8 月	宮古体育大会	2,647 人	2,616 人	2,025 人
10 月	エコアイランド宮古島マラソン	1,034 人	1,403 人	1,605 人
11 月	「南部忠平杯」グラウンドゴルフ宮古島大会*	386 人	417 人	367 人

* 平成 27 年以降の開催予定なし。

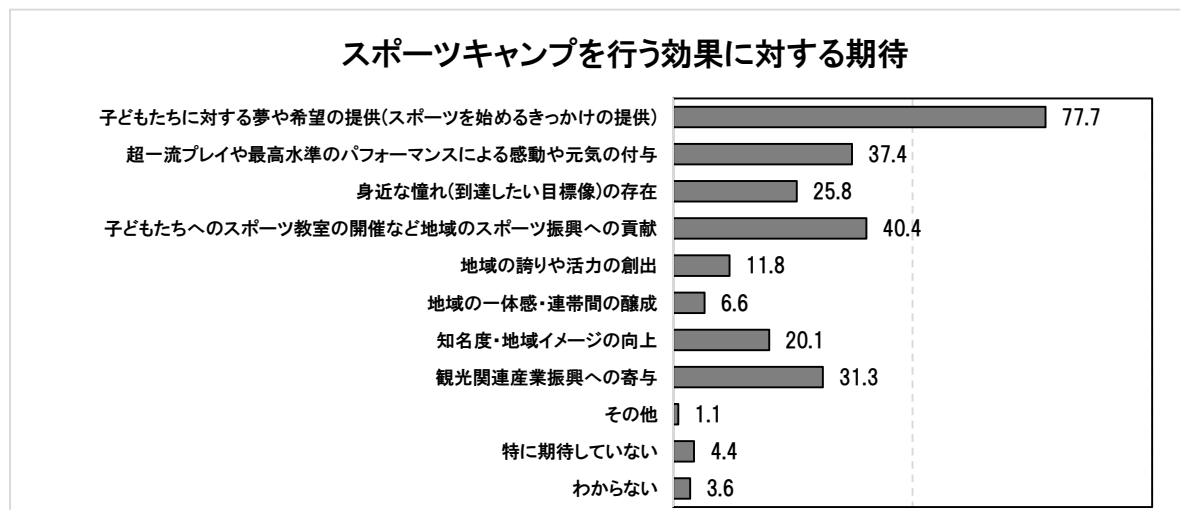


資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

子どもたちのスポーツ意識の向上や地域活性化が期待されている

「宮古島市市民意識調査」によれば、スポーツイベントなどが行われることでの効果に対する期待は、「子どもたちに対する夢や希望の提供」と答えた人が最も多く、次いで「子どもたちへのスポーツ教室の開催など地域のスポーツ振興への貢献」となっています。

市民は、スポーツイベントによる効果として、トップアスリートとの交流や指導などで、市内の子どものスポーツ意識の向上や地域活性化へつながることが期待されています。



資料：宮古島市「市民のスポーツに関する意識調査」

スポーツイベントやキャンプなど受入体制が不十分

現在、大規模なスポーツイベント（トライアスロンやワイドーマラソンなど）は、行政内に実行委員会や窓口を設置して、行政職員が対応していますが、運営スタッフや当日スタッフが不足している状況です。また、スポーツキャンプや合宿を行いたい競技団体やアスリートとの調整を行う窓口はなく、現在は施設管理者（主に市民スポーツ課）が対応しており、訪問した競技者の細かな要望に対応することが困難な状況です。

市内には、競技者向けの上級コーチ及びアスレティックトレーナー^{※12}や障がい者スポーツなどの指導者が不足しており、競技者が適切な指導を受けられない状況です。

<課題>

- ① 本市全体でイベントを盛り上げるために、多くの市民にイベントの運営・支援の協力を得ることが必要です。
- ② スポーツを通じた交流を促進し、子どものスポーツ意識の向上や地域活性化へつなげるために、スポーツイベントをより充実し、イベント参加者の増加を図ることが必要です。
- ③ スポーツイベントを開催するときは、プロチームやトップアスリートと地域住民とできるだけ交流するような仕組みつくる必要があります。
- ④ 本市をスポーツ合宿やキャンプで訪問するプロチームやトップアスリートの細かな要望に対応し、スムーズにトレーニングが行える体制や施設を整備することが必要です。